

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400035		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 蒜山		
所在地	岡山県真庭市蒜山上長田28-1		
自己評価作成日	平成29年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400035-00&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ISO規格での支援をもとに四季折々の移り変わりを楽しみつつ、静かな環境でゆっくりと日常生活を送っています。出来る事を大切にしながら日々の生活が継続できる様努めています。又、体調の変化があった場合はご家族、医師、看護師との連携を行い、早期処置に努めています。職員の意思の統一を図り、一人ひとりの思い、身体の状態に応じたケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蒜山地域で第一の拠点とも言える上長田に社会福祉法人「鶯園」が、特養千寿荘を軸として数多くの介護サービス事業を展開している。その中のグループホーム「蒜山」は、今年設立十周年と聞いた。この地域も他と同様、独居の高齢者が増え、ホームへの入居希望者が多く待機している。特養・その他の法人事業所の連携・協力の状況が利用者の安心材料となっている事・職員の入れ替わりが少なく馴染みの関係が続いている事・職員手作りの美味しい食事が何よりの楽しみになっている事・思う事を自由に言い合える雰囲気や好きな事を楽しみたい思いを職員がさりげなくサポートしている等、数多くの特長を見つける事が出来た。ホーム・十周年の区切りを機にこの年月を振り返り、「その人の持つ、こころの内を少しでも広げてあげるケア」を目指して、「一歩前へ」進めて下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は職員全員で共有するものなので、事業所内に掲示して確認を行っている。運営規定に分かりやすい表現で明示している。	ホームの通年の目標として9項目掲げており、経営ビジョンを各自の名鑑に入れて携帯している。また、品質目標として「水分摂取1日1500cc以上」「介護事故ゼロ」「余暇活動の充実」等に力を入れており、実施内容を毎月評価して全職員で意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・行事での外出、ご家族・ボランティアとの交流をしている。	特養「千寿荘」との合同イベントに参加したり、地域の人や愛育委員等のボランティアが定期的にホームに来訪してくれる。長田神社祭りではお神輿が来てくれ、近隣の高校の体育祭の見学に行き、地域の人と交流や親睦を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・行事での外出、参加により地域の方との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回の会議に於いて、ご家族を始めご本人、他の出席者からの生の声を聞いて具体的な支援の取り組みに役立っている。	同敷地内にある特養で合同運営推進会議を開催している。毎回、利用者1名とその家族が月替わりで参加しており、行政、地域の人、法人内の他事業所職員等と幅広い情報共有・意見交換を行っている。議事録からも活発な議論の内容が確認できる。	グループホーム単独で実施していたこの会議が全施設で合同で開催されるようになって、情報交換等のメリットは多いと思うが、このホーム独自の問題について話し合う時間が少なくなっているのではないかと思う。こういった点に配慮した会議の運営を工夫してみたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議の場を借りて事業所の活動等を伝えたり、又、地域の一員として市内の活動に参加している。	運営推進会議には毎回、真庭市振興局の職員の参加があり、日頃からホームの運営や現状をよく理解してもらっている。連携や協力関係もよく出来ており、何かあればいつでも気軽に相談に乗ってもらえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・関連事業所内で「身体拘束をしないケアの実践」の委員を選出し、年2回と必要に応じて会議を行い、身体拘束のないケアを実践している現在、拘束ゼロの実績がある。 ・施設全体会議で年1回研修が行われている。	法人の方針で玄関の施錠はしていない。「身体拘束廃止・言葉による拘束」等に関して職員の研修を徹底しており、このホームでは身体拘束はない。外に出たい人には敷地内を一緒に散歩したり、コミュニケーションをとって気分転換をしてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設全体会議で年1回研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・利用者の権利を尊重する事を念頭にサービスの提供を進める。 ・施設全体会議で年1回研修が行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時の契約作成時に説明を行い、納得して頂いた上で確認印をもらっている。退去については契約に基づいている。改定については、その決定過程を明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・サービスに関するアンケート調査を行い、全体会議、G. Hミーティング、推進会議等で結果報告し、今後の支援についての話し合いを行っている。	1年に1回12月に家族アンケートをしているが、意見・要望が出る事は少ない。各担当者が利用者の生活の様子、状況報告等を写真掲載付きで毎月の請求書と一緒に送付したり、3ヶ月毎に発行している「にこにこ通信」には行事や余暇活動の写真を掲載している。	年一回の家族へのアンケートその他、家族の言葉に耳を傾け意見をホーム運営に反映させようとよく努力している。さらに、家族の立場に立った話しかけや調査方法に工夫を加えて、少しでも本音が伝わる努力をして下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員は年2回、スキルアップとセルフチェックの自己評価表の作成を行った上で主任、管理者と面談を行い、意見、提案、相談等を行っている。	毎月テーマを変えて、職員会議の中で研修しており全職員のスキルアップを図っている。勤務年数の長い職員が多く和気あいあいとした雰囲気職員の間も良く定着率が良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・申請により有給を使った連続七日間のリフレッシュ休暇が取得できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修に参加したり、資格取得の奨励を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内グループホーム全施設の参加により6ヶ月に一回連絡会議を行い、市職員からの伝達事項も含め情報交換、困難事例の相談の場となっている。又、講師を招き研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に自宅を訪問し、気掛かりな事や意見・希望を気軽に相談できるよう努めている。 ・ご本人・ご家族の意向の確認。 ・ライフスタイルヒストリーの作成。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前にご本人も含めた面談を行い、ご希望等を汲み取る様になっている。ご利用者の面接で信頼関係の足掛かりの糸口を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前にプラン作成(入所前調査表に基づいて)3ヶ月後ケア会議を開催、必要な支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員と利用者は常に平等の立場と考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と相談を密に行い、ご本人にとって最良の支援を心掛けている。 ・帰宅・外出・面会・月1回のお便り・外泊等、ご家族等の環境により個々に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・買い物外出・地域行事への参加・地元ボランティアの依頼・ご家族への手紙の支援。	法人の敷地内に様々なサービス事業所があるので、ホーム外に出たり、合同イベントに参加した折、顔見知りの人や知人に出会う事もある。家族の面会も多く、趣味の材料を差し入れてくれる家族もいて、アルバムからも家族との絆が見て取れる。受診時に近所の人と再会して話し合うこともあり、職員は日頃から関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士、職員も含めお互いに支え、認め合える生活、馴染みづくりの支援、環境づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現在までは退所者の方でその後の支援が必要な方は特におられない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所者のどのような行動にも理由があることを理解し不安に感じている理由を考え、不安を取り除いたり和らげるよう努力している。	ライフスタイルヒストリーや生活歴等を職員はしっかり把握している。比較的元気で意思表示や感情を表出できる人も多いので、しっかりコミュニケーションを取りながら、その人の気持ちをきちんと受け止めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・日常会話の中で生活歴の情報を得ることによりライフスタイルヒストリーの充実を図り、職員間で情報の共有を確実にを行い、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・介護経過記録や日常生活チェック表の記入により、ほぼ24時間の生活状態や体調が把握できるシステムになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・半年ごとのケア会議、モニタリングを行っている。 ・困難事例についてはご家族にも意見を伺い、生活の質の向上につながる介護計画の作成を行っている。	本人・家族の意向を基に職員間で話し合いながらプランを作成している。アセスメント・モニタリングを定期的に行い、状況の変化に応じたケアプランを作成しているが、一人ひとりの楽しみや心の充実感に焦点をあてた目標がもう少しあってほしいと思える。	利用者一人ひとりのケア方針を明確に設定しているが、身体的機能向上面が多く、精神的・心理的ケアが少ないと思えるので、これからは「心のケア」に重点を置いたプランを考えて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々のサポート日誌や職員間の連絡帳などで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その日の事であってもご家族からの希望等があれば速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・定期的なボランティア訪問により、馴染みの関係が築け、豊かな時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個々にかかりつけ医があり、月一度往診を受け、健康チェックを行ってもらっている。	従来からのかかりつけ医を受診する人が殆どであるが、協力医の往診も定期的にある。歯科等の他科受診は職員が同行することが多いが、特養と兼務ではあるが、職員に看護師も配置されており、日頃の健康管理体制も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・細かく行っている。事業所内の職員の看護師による健康チェックがあり、緊急時の相談等細かく連携を行い、適切な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ご家族を交え相談に努めている。 ・入院時には情報提供をし、退院前には病院から情報提供が行われる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化された場合、ハード面では対応しきれない部分があるため、入所時に説明を行い理解を得ている。直面した場合にはご家族と話し合い、最善の方法を考えていきたい。	同敷地内に特養があり、重度化、医療措置が必要となった場合は、病院への入院や特養へ移行するケースが殆どであり、これまで看取りの事例はない。現在、寝たきりの人はなく、自分の事は自分で出来る人が多い。利用者・家族とはその都度よく話し合いながらケアの方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ISO認可事業所ということもあり、マニュアルに沿った対応を行っている。救急法の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・事故発生時の緊急マニュアルに沿って対応し、年2度避難訓練を行っている。緊急通報システムあり。 ・スプリンクラーあり。	年2回、総合訓練を行ない、利用者も参加して避難経路の確認や誘導方法等の避難訓練を実施している。消防署員から緊急時の研修も受けている。災害時や緊急時には母体施設の応援や協力が得られ、連携体制も万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報保護規定やISOに基づきマニュアルに沿った支援、施設理念として利用者のプライド、プライバシーの保護を大きく掲げている。年1回施設全体会議での研修を行い、全員出席を課している。	トイレの出入り口2か所がリビング側と脱衣場側とに直結しており、失敗があっても即、対応でき、羞恥心やプライバシー確保への配慮に対応できている。常時、個人情報保護法(ポリシー)をリビングに掲示して職員間で意識の統一をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で選択肢を明確に伝えることにより、押しつけの支援にならないようにしている。ご本人の希望を第一に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々のスケジュールはあるが、個々の体調や要望を考慮して自由としている。基本的には毎日入浴ではあるが、無理強いせず、他の対応で清潔を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びは一緒にすることが多い。季節を考慮したり、利用者様の好みを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みの料理をお聞きしながら食材を選び調理をしている。以前は利用者も準備や片付けをされていたが今はしていない。	毎食、職員が献立を考え、薄味と栄養を考慮した一汁三菜の品々が食卓に並ぶ。「ここきて4キロも体重が増えた」と話してくれる人もいた。「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする役割の人や後片付けを率先して手伝う人等、出来ることはしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回摂取量を記録することにより、ご本人の食事量・水分量の把握が出来る。 ・食事量はご本人と相談し適量を提供、水分量は一日1,500mlを摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケア、口腔内チェック、必要に応じてお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表にて確認。必要に応じた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握して、適宜声かけ誘導を行ない、オムツを使用しないケアを心がけている。歩行に不安のある人には夜間用にポータブルトイレを置いているが、職員の適切なトイレ誘導で殆どの人は夜間もトイレでの排泄を頑張っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々に応じた水分のとり方や食材への配慮、食物繊維の考慮を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・基本的には毎日入浴、時間は午後のご本人の意向を重視し、楽しみにして頂けるよう心掛けている。	1日おき午後入浴を基本としている。殆どの人が浴槽を跨いで入浴でき、マンツーマンで楽しく会話をしながら入ってもらっている。拒否がある時には清拭や更衣のみの事もあり無理強いはない。行事計画には「風呂の月」もあり、温泉の湯に入ってもらい楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の体力に見合った休息をし、個々の生活リズムを大切にしている。安心して休んで頂ける様な声掛けに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬は職員が把握でき情報を共有できるシステムにしている。変更がある時は、連絡帳で情報の共有を図る。毎日のバイタルチェックで症状を確認して、変化のある時は、担当医に連絡・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の楽しみは違う為、ご本人の希望に沿いながら張りのある生活を送って頂けるよう支援している。 ・役割については、ご本人と相談しながらお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩、ドライブ等は、利用者の要望があればいつでも出掛けるようにしている。	気候の良い季節には非日常的を楽しんでもらおうと、花見・紅葉見物・ドライブ等に出かけている。日光浴や外気浴、気分転換を兼ねて法人の敷地内を散策する事は日常的であり、時には墓参り等に家族と一緒にいく事もあり、外出の個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の管理が出来る方がいない。(ご家族も希望されない。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・能力に応じて近況連絡やお礼状を書く支援。 ・ご家族に連絡がしたいとの要望があれば、すぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある壁画構成。 ・整理・整頓を心がけている。	毎月、利用者とするクラフトの大作がリビングの壁一面に展示してある。今日も次作に向けて色を塗る人、ハサミで切る人、貼る人と分担作業に余念がなかった。明るい窓際に円形状に配置されたソファでは体操したり、歌を唄ったり、おしゃべりを楽しんだり、利用者の笑顔がたくさん見えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが狭いのでソファの座り位置等考慮し、全員の方が居心地の良い場所であるように配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベッドの位置。 ・ポータブルトイレの設置。 ・ご本人の希望に応じた家具の移動等ご本人の意に添った居室づくりを心掛けている。	思い出のあるドレッサーや仏壇を持ち込んだり、子・孫・ひ孫等の家族に囲まれた写真を飾り、これまでの生活の延長のような落ち着いた温かい居室になっており、それぞれの個性や家族の愛情が感じられる居室も多く見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・転倒防止の為に手摺の設置。 ・ベッドに移動バー設置 ・施設内24時間換気のロスナイ設置。		